

同じ坂上郎女の歌一首

九九三番

月立ちて ただ三日月の 眉根搔き 日長く恋ひ
し 君に逢へるかも

おほとものすくねやかもち みかづき
大伴宿禰家持の初月の歌一首

九九四番

振り放けて 三日月見れば 一目見し 人の眉引
き 思ほゆるかも

おほとものさかのうへのいらつめ うがら
大伴坂上郎女の、親族を宴する歌一首

九九五番

かくしつつ 遊び飲みこそ 草木すら 春は生ひ
つつ 秋は散り行く

かふしゆつ あまのいぬかひのすくねをかまろ みことのリこた
六年甲戌、海犬養宿禰岡麻呂、詔に応ふ

る歌

九九六番

御民我 生けるしるしあり 天地の 榮ゆる時に
あへらく思へば